

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200638		
法人名	有限会社 ムラオカ		
事業所名	グループホーム ひだまり すみれ棟		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町長野郷380-17		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心の通い合う介護を家庭的な雰囲気の中利用できるグループホームです。周辺は自然に囲まれゆったりとした時間の中で1人1人がその方らしい生活が営めるよう介護サービスを提供しています。日々の生活の中で利用者様1人1人が出来ることを最大限に発揮し認知症の進行予防に取り組み、運動機能の低下を招かないよう個々の身体・精神状況に合わせた個別のリハビリを提供しながら利用者様、ご家族様が最後まで喜んで頂けるような自立支援に向けたサービスを行えるよう、日々利用者の皆様と心が 寄り添った介護サービスの提供が出来るよう努めています。またグループホームは認知症ケアの拠点と考え、認知症の啓発活動の実施(認知症サポーター養成講座)や認知症を一般の方々へ認知して頂くための活動も併せて行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは新型コロナ禍のさまざまな制限がある中でも、季節行事や花見ドライブ、一緒に好物を調理する等、利用者の笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。職員が資格取得やステップアップを目指し支援に対して意欲を持ち、取り組む姿勢はホームの強みである。施設長は限られた人員を最大限に活かすべく、SNSを活用した情報共有、セラピーロボットなど業務のICT化を奨めている。また、行政に対し介護業界の提案を行い、地域貢献に意識を高く持って取り組んでいる。地域の福祉拠点として認知度が高く、看取りの実例も多い。最期のお別れができるよう配慮しており、本人・家族にとって幸せな時間となっている。理念にある“ダイヤモンドの笑顔”を具現化し、終の棲家として利用者が穏やかに過ごすことができるよう、支援に努めるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を掲示しており、いつでも見れる状態である。理念を実践しその人らしい暮らしが出来るよう取り組んでいる。	理念の5項目は、開設当初の職員の思いをもとに作成しており、職員が自覚を持って行動できるようわかりやすい文言である。施設長は、新人教育や日々の支援にて、理念の根底にある意味や思いを常に職員に伝え共有を図っている。職員は利用者の笑顔を引き出す支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は、合同の消防訓練、家族会(地域の方も参加)を行って交流を行っていたがコロナで難しくなっているのが現状である。落ち着いたら積極的に地域の方と交流を増やしたいと思う。	小・中学生の福祉体験での交流や、ホームの行事に地域住民を招く等、地域に定着したホームである。新型コロナにより交流を控えている状況であるが、こどもの日に粽を多めに作り、学童保育に届けたり、住民から認知症の相談を受ける等、交流が途絶えないよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナでご家族や地域の方々との交流をする場を作って認知症の理解や支援方法を実践したいと思っているが、出来ていないのが現状である。コロナが落ち着いたら実践したいと思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで小規模になっているが、運営推進会議を開催し、利用者様の状況報告、施設の問題等を話し合い、参加者の意見をサービスの向上に活かせるよう努めています。	新型コロナによる感染を避ける為、構成員参加の運営推進会議を、他施設にて1回開催しており、活動報告やオンライン面会、災害関連等の意見交換を行っている。職員による小規模会議を5回行い、議事録を構成員や家族へ郵送している。ただし報告のみであり、委員の意見聴取がない。	小規模会議開催の際は、構成員や家族に対してホームの報告のみに留まらず、双方向で情報共有できるよう、意見聴取の工夫に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が窓口になり、区役所へ連絡を取ったりと、協力関係を築けるように取り組んでいる。	役場担当者に、ホームの状況報告や運営上の不明点を尋ねている他、案内がある研修は新型コロナ禍にあっても職員の希望に沿い、オンラインで受講している。施設長は、行政に介護職員不足に関する提案を行い承認される等、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、3か月に1回、不適切なケアがないように話し合いや、意見交換、問題点への取り組みを行っている。また、全職員が意見を言えるようにアンケートを作成し、それを参考にして話し合いも行っている。	身体拘束適正化の為の指針を整備しており、3ヶ月毎に委員会を行い、結果はミーティングの際に報告し、職員共有を図っている。NGワード一覧表の他、職員は判断に迷う時には施設長に相談している。また、不適切な場面を見かけたら、管理者が注意する等拘束のない支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会がミーティングの時に、話し合った意見を発表し、全職員に共有しており、わからないことは、その場で施設長に聞き学ぶ機会も出来ている。また、一人で抱え込まないようにアンケートを作成し全職員が意見を言いやすい環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ひだまり独自の研修動画で勉強会を行い、介護に関することを学べる機会を設けている。成年後見制度に関しては、職員の理解は浅く、勉強会を行う必要があると感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が入居される際に、詳しく説明を行い同意を得ている。利用者様や家族などの不安、疑問点を尋ね、十分に話し合い、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し気づき、気になることを誰でも遠慮なく言えるようにしている。また、運営推進会議でも意見、要望を聞き運営に反映できるように努めています。	苦情相談の窓口と体制は、重要事項説明書に記載し契約時に説明している。新型コロナ感染予防のため、家族の面会は予約制とし、施設警戒レベルを設定しており、レベルに応じて面会方法を定めている。電話やSNSを活用し、家族の要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が意見を言えるような環境作りを心掛けており、施設長にもいつでも相談できる環境である。カンファレンスやミーティングでも必要なことは話し合い改善出来るように努めています。	毎月開催するミーティングやユニットで開催するカンファレンス時に、職員は意見や提案を行っている。施設長は、毎月ミーティングへの参加や随時個別に話す機会を設け、現場の様子を把握している。行事や業務内容は、職員の意見を反映しサービス向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の際の研修費の負担など向上心を持って働けるよう支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のペース、レベルに合わせ研修会の参加、受講を促し、職員の質の向上に努めています。現在はコロナでリモートでの勉強会が多くなっている状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナで同業者との交流が減っているが、コロナが落ち着いたら積極的に取り組み、サービスの向上に取り組みたいと感じている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心した生活が送れるように、不安、問題点に早急に対応出来るように話し合いをしており、施設長からも助言を貰っている。また、普段から利用者様とのコミュニケーションを多く取り信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり、利用者様、家族の方の不安なこと、気になる事、要望などを十分に聞けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の現在のサービスを見極め本人様にとって何が必要か、医療連携機関、他の専門機関などの意見も参考にし、支援とサービスが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物、掃除など、利用者様にも手伝って頂き職員と一緒にいき、暮らしを共にする者同士の関係に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナで家族様との会う機会が減っている状況だが、ご本人の悩みや不安と一緒に考え、家族様にも電話、手紙で状況を伝え、一緒に考えて頂き、できる限りの支援に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナで馴染みの人や場所との関係が薄くなっている状況だが、コロナが落ち着くと積極的に取り組みたいと思っています。	利用者の生活歴や馴染みに関する情報は、アセスメントにまとめ、職員間で共有している。現在新型コロナウイルス感染予防として、施設警戒レベルを設定している。レベルに応じて面会方法を検討し、予約制としている。手紙を代筆し投函したり、携帯電話を所有するなど、施設内でも家族や知人などとの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	利用者様同士が会話がしやすい環境を作っ ており、耳が遠い利用者様は、職員が間に入り 会話が出来るように支援をしている。また、利 用者様が協力し合っていく、作品(貼り絵など) 作り、洗濯物など共同生活が送れるように努 めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後でも、必要に応じて、 相談、アドバイス、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、意向に添 えられるように努めています。また困難な場合 は、家族様にも支援をお願いし、本人本位 で検討しています。	職員は、日中リビングや入浴介助時など、利用者 様がリラックスしている時に、思いや意向を汲んでい る。会話が困難な利用者には、表情やアクション で返事ができるよう声掛けを行い、本人本位に検 討している。得た情報は個人カルテや日誌、申し 送りで、職員は情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、一人ひとりの生活歴や今までの 暮らし方をアセスメントで把握して生活環境 を整え本人様がその方らしい安心した生活 が出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、毎日の申 し送り、申し送り帳の記入、カルテの記入、 グループライン報告にて全職員が現状把握 出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	毎日のバイタルチェック、会話などで、利 用者様の観察を行い、小さな変化にも職員 間、施設長で情報共有を行い、カンファレン スを行い、利用者様の現状に応じた介護計 画を作成している。	長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成している。 毎月のカンファレンスでは、利用者の小さな変化 や気づきを職員間で共有しており、支援方法を検 討している。担当職員がモニタリングを行い、6ヶ 月毎の評価に基づき見直しを行っている。介護計 画は本人・家族の同意を得て実践しており、日計 表にて実践状況が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで話し合って、本人様にとっ て現状に応じたサービスを行い、取り組み、良 かったこと、悪かったこと、気づきを情報共 有し、実践や、介護計画の見直しに活か している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのケアを行う際、本人様に合ったサービスを心掛けて取り組み、毎回同じサービスばかり行わず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナで、地域資源との協働が減っているので、落ち着いたら取り組んでいきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携機関と関係を築き、受診、往診、特変や、夜間時の急変、見取りにも対応して頂けるよう事業所との関係を築き、適切な医療を受けられるように取り組んでいます。	契約時に、かかりつけ医の受診は家族の協力が必要であることを説明し、本人・家族が望む医療機関を選択している。協力医の定期往診や看護師による日常的な健康管理を行い、受診結果は家族へ伝え共有している。夜間緊急時は、対応マニュアルを職員に周知しており、24時間の医療連携体制を整え、適切な支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携機関の看護師に何かあったときは、状態の報告詳しく伝えて相談をし、適切な受診や看護が受けられるように取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、安心して治療に専念できるように、家族様と情報交換を行ったり、情報が途切れないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向をご家族様から確認を行い、施設長、職員、ご家族、担当医との話し合いを行い看取りの説明を行い、同意を交わし、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化や看取り指針をもとに、本人・家族に説明している。利用者の体調変化により、主治医を交え家族、看護師で話し合い、終末期に対する家族の意向を確かめ「確認書」に同意を得ている。看取りを経験した職員も多く在籍しており、看取り後の振り返りで、家族や職員の心のケアを行い、終末期支援の共感を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故のマニュアルが、全職員がいつでも見れる状況が出来ており、パニック状態になっても落ち着いて対応出来るようになっている。コロナで勉強会が減っているので、コロナが落ち着いたら取り組んだ方がいいと思っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	水害、防災避難訓練など施設で行っている。また、グループホーム協議会にも職員が参加し、災害対策を勉強し、ミーティングで発表し、災害対策などの情報共有も行っている。	災害マニュアルを整備し、施設長指示の下、誘導できるよう利用者の避難先も確保している他、有事の際の備蓄や非常持出を整備している。職員は、災害時の危機管理等、オンラインでの研修に参加し知識を習得している。ただし、新型コロナ感染を避ける為、知識を活かした避難誘導や消防団が参加しての訓練が行われていない。	近年、全国各地で頻発する災害を踏まえ、利用者の命を守る為、消防団にも協力を仰ぎ、マニュアルに沿った訓練実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、敬う気持ちを忘れず、接していけるよう取り組んでいる。また、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めています。	接遇委員会があり、電話対応や言葉遣いの勉強会を開催している。職員は利用者と接する時や業務中の職員間での情報共有時の言葉遣いについて、本人の人格を尊重し敬う気持ちを大切にしている。特に失敗時の声掛けには細心の注意を払っている。個人情報の管理、職員の守秘義務の周知徹底に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思い、希望を発言できるように取り組み、自己決定が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりのペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援できるに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が好む服装や身だしなみやおしゃれが出来るように支援をしている。化粧品が欲しいという利用者様には、家族様と相談を行い支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるように、誕生日などに、何が食べたいですか？と尋ね、好みの食事をなるべく食べて頂けるように支援をしています。また料理を作る際は、利用者様と、職員と一緒に作ったりしています。	食事は外部委託している。利用者の嚥下などの状況に応じ、刻みやとろみ等の個別に盛り付けを行っている。季節行事の調理では、利用者のアドバイスを受けながら、職員が特別メニューを準備している。誕生日は利用者のリクエストをもとに、自分の好きなメニューを選んでもらっており、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量、水分量を毎回把握し、カルテに毎日記入し、体調管理に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて、一部介助、声かけを行っています。出来ない利用者様には、全介助をしています。何かお口のトラブルがあった際は、医療連携機関に相談行い、往診で診てもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力に合わせて、一部介助、声かけを行っています。また、排泄時間が多い時間帯を把握し、声掛けでトイレを促し自立してもらうよう支援を行っています。	職員は、利用者がトイレでの座位による排泄ができるよう、排泄介助を行っている。排泄支援状況は、チェック表に時系列でわかりやすく記録している。記録を基に、声掛けのタイミングや支援内容を検討している。ホームでは、少しでもパッドの使用が少なくなるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合わせて、便秘の予防を行っています。毎日の水分チェック、食事量のチェック、運動の働きかけや、必要に応じて下剤を服用して頂き調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する日は、大体決まっているが、ご本人が望まない時は、無理強いすることなく別日に変更している。	毎日入浴準備を行い、1日おきを目安に声を掛けしている。基本的には浴槽に入るよう支援しており、シャワー浴を行う場合は、足湯や暖房など寒くならないよう工夫している。入浴拒否時は、声掛けや時間を変えながら無理強いせず、入浴中は、職員と会話を楽しむなど、リラックスできる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や安心して気持ちよく眠れるように、状況に応じた衣類、布団、室温調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、一人ひとりが、何を服用しているか理解と把握に努め、利用者様の症状の変化に気を配り、担当医と連携を図り、服薬支援に取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のレクリエーション、散歩、月行事などのドライブを行い、気分転換が出来るように取り組んでいます。また月行事の料理なども利用者様と、職員と一緒に楽しく作ったりもしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化を感じていただけるよう、天候やその時の利用者様の体調を把握し、月行事としてドライブなどを行っています。	現在新型コロナ感染予防のため、外出は制限中である。中でも、利用者の体調や天候を見ながら、ホーム敷地内の散歩を行っている他、季節を楽しむために、初詣や花見などのドライブを計画し実行している。ドライブでは、タイ焼きを買って食べたり、写真を撮るなど、楽しい時間となるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が欲しいものがあつた場合、家族様と相談して、預り金から使用出来るようになっていきます。また金銭管理が難しい利用者様は、事務所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がかけたり、ご家族様からかかってきた際は、本人様と代わり、お話ししていただく機会がある。本人様が電話をしたいときは理由をしっかりと傾聴し家族様とも相談をし、電話できる環境も出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者様が不快にならないように音量、湿度などに配慮している。また、混乱しないように、机、テレビ、物など、場所の変更をなるべくしないようにしている。	リビングは利用者が寛げるようテーブルやソファを配置している他、車椅子も自由に行き来できる広々とした造りである。利用者は職員と調理したり、テレビやカラオケを楽しむ他、セラピーロボットに語りかける等、日中リビングにて思い思いに過ごしている。職員による清掃や空調管理で、清潔で気持ちよく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が好きな所で過ごせるように、腰掛けテーブル、ソファを配置し、自由に過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様が昔から使ってる馴染みの物や、必要なものを持って来て頂き、利用者様にとって心地良く過ごせるよう工夫をしています。	利用者は使い慣れた馴染みの物を居室に持ち込みしている。テレビや携帯電話等電化製品、仏壇や遺影写真、家族写真を飾り、家族との繋がりが確認できる居室である。睡眠状態の把握や転倒防止に役立つ眠りスキャン導入や新型コロナ感染拡大低減のための陰圧装置を増設し、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が、すぐに日時がわかるように、カレンダーや時計を見やすいところに配置し、自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200638		
法人名	有限会社 ムラオカ		
事業所名	グループホーム ひだまり さくら棟		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町長野郷380-17		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修にて事業所の理念を理解してもらう事や、定期的に理念の読唱を行い理念に基づいたサービスの提供が出来るよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練などの施設全体の行事は、地域の方々にも参加を呼びかけ、地域との交流ができる機会を行っているが近年はコロナ感染症の関係で日常的な交流は出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練や認知症サポーター養成等を通じて、地域の人へ認知症の方の理解をして頂けるよう活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を通して、事業所の運営の様子や取り組み等を家族や地域の方々に知らせている。また意見をもらった場合はサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	基本的に不明点等は担当者へ報連相を行っている。また運営推進会議や防災訓練、行事など大きな行事には声を掛け、事業所の運営を理解してもらい、協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、職員全員の意見を元に話し合いの他別途身体拘束の研修などを開催し、身体拘束のない施設を目指し取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受け、虐待への知識を深めている。また接遇委員会や身体拘束委員会を通じた虐待のない施設を目指し、取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に該当者の方も入居されており、成年後見人と関わり、小さなことでも連絡を取り合っている。また権利擁護に関わる研修会は最近行えていないが定期で開催していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長を窓口にし、契約の説明を利用者と家族に納得されるまで行い、疑問点も聞きやすい環境を作るよう心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の担当職員を決めており、基本的には担当者が窓口になり、小さなことでも家族と連絡を取り合って話しやすい環境を作っている。また意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開催し意見を出し合い、話し合った内容が浸透するようにしている。また運営に関する事についても職員の意見を参考に判断している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状態を把握し、相談に応じたり職場環境を整えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人の能力にあった研修参加を促すことや、職員からの申し出もヒアリングしながら積極的に1人1人のスキルアップに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアネットはさみへの参加や、グループホーム協議会への参加により、交流する機会を作り、それをもとにサービスの質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聴き取り、家族からの情報を受け要望に沿うことが出来るような対応を心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや希望等を汲み取り、本人様にふさわしい対応をすることで不安なく生活して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様共に必要とされている支援を行うためのアセスメント、情報の共有をもとに、他のサービスも含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の思い、意思を尊重の上、生活の中で気軽に対応できる様、関係作りで支え合えるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族との関係性を尊重し、それぞれの思いや絆を大切にしながら、本人を支えられるよう、月に1度の手紙や電話などで、安心して頂ける様対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為、直接面会や、馴染みの人との関係性が途切れないような本人様への支援が出来る事が少なくなっているのが現状だが、コロナの影響が少なくなれば取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見極め孤立せずに、共に楽しく生活が出来るように声掛けや支え合い、協同作業を通して良い関係性を築けるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供終了後も必要に応じてフォローできるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らしの意向を把握するための言葉かけや、職員間の情報共有を大切にするよう努力している。また本人が有する能力を活用できるよう支援等を考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴、及び環境について理解の上、経過と把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で利用者様のADL、過ごし方、心身状態等の情報を共有し、現状把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のカンファレンスにおいて、職員間の情報を元に課題と今後の支援について、目標を立て介護計画作成し、モニタリングを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテの記録をもとに情報を共有しながら、ケアプランに添った支援が出来るよう実践し、結果につなげるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれに必要な支援の方法やニーズに対応して、本人、家族が納得できるようなサービスを提供できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人1人の必要としている地域資源を把握し、買い物、病院など楽しく安全に暮らしていけるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望による病院を選択、受診し、家族と連絡、連携をとり、かかりつけ医との信頼関係を築きながら軽度の事も相談出来る関係性となっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時ではないが職場内に看護職員が配置している為、医療機関との連携を密にし、24時間体制で対応出来るよう、適切な受診や看護を受けられるよう支援できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者と病院及び家族と家に連絡をとり、利用者の状態を把握し早期の通院が出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を定めており、職員が終末期の研修により、何をすべきかなどを把握に努め、利用者の入所時に家族との話し合いにより終末期の意向を確認している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修に参加し、適切な対応が出来るよう学んでいる。又マニュアルを棟に提示し緊急時にも対応できるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な防災訓練や地域消防団の協力指導を得て、施設の地形に沿った、災害に関する勉強会が行われるなど、実践的な防災体制が整えられている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心とした勉強会などで、適切かつ個人の人権や尊厳などを損なわれない様援助している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身振り手振りその他、アセスメント表から抽出した嗜好等も選択肢に入れ、声掛け等で意思疎通能力が低い方でも、様々な場面で自己決定出来るよう声掛けにも配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立支援に向けた取り組みとして、全てが本人の意向や希望にそってサービス提供できていないが、一人一人のペースや体調にあわせた生活リズムで生活が遅れるよう、又やる気を引き出せることで希望のサービス提供が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時などの整容やその人に合った身だしなみや衣服選びなど、おじゃれを楽しまれるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事自体は外注ではあるが、提供する際、メニューなどを利用者に伝え、その間の会話など食の好みを把握し、施設行事の際にメニューに取り入れるなど食事を楽しんでもらえるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残さず摂取出来るよう、形状や介護内容を工夫しながら、食事摂取量や水分量をチェックしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内ケアを適切に行い、定期的に歯科医の指導・診察により、口腔内の状態を良好に保てるよう連絡を取り、口腔ケアの指導を直接受け、清潔が保持できるように援助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人での排泄パターンや間隔、癖、サインをチェックしながら、声掛け促していき排泄の自立支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬にて排便コントロール行っている。1人1人の食事・水分摂取量をチェックし調子を見ながら、無理のない範囲で食事を提供している。又食べやすいよう食事形態も工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要に応じて声かけることもあるが、1人1人の希望やこだわり等を出来る範囲で取り入れながら、入浴支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や入眠時間以外でも、利用者様の調子や夜間の入眠状況等に応じて、休息を促したりしながら、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については担当者が把握しておりどのような病気を起因として服薬しているのか？服薬に関しどのような副作用が出現する可能性があるか理解したうえで支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節・祝日行事やお楽しみ会等を開催しながら楽しんで頂いている。又物づくり等、個人の趣味を活かした役割を持っていただきながら生活支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ等の感染対策の為、遠方へのドライブは行えていないが、町内ドライブへ出かけたらしながら、気分転換を図れるような外出支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解が難しい利用者様には所持する金額を決めて、その中で楽しく今自分に必要な物を職員付添いのもと、買い物出来るよう支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が希望され、その旨をご家族にも伝え了承を得て、電話や手紙のやりとりを行って頂いている。ご希望がない方は必要な時に職員が連絡を取っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々季節を感じられる貼り絵などの壁紙を作ったり、季節の花を利用者様に花瓶にいけて飾って貰ったりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	丸いテーブル席に2～3人で顔が見えるように座って、気の合う方々と話していただき、ソファ席でも利用者全員と空間共有できるような配置を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては防災、転倒の危険性の観点において、問題がない限り、自由に写真や昔からの馴染みの物などを飾って頂いている。希望がない場合は誕生日カードなどを飾り、華やかにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は可能な限り自立した生活が送れるよう、転倒リスクとなるような障害物等は排除するなど取り組んでいる。し		